

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	ジョグジャカルタのショップハウスにおけるプライバシー・コントロールに関する研究
Title(English)	Study on Privacy Control in Shop Houses in Yogyakarta
著者(和文)	LYADEWI ANGGRAINI
Author(English)	Lya Dewi Anggraini
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9344号, 授与年月日:2013年9月25日, 学位の種別:課程博士, 審査員:大野 隆造,篠野 志郎,奥山 信一,中村 芳樹,那須 聖
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9344号, Conferred date:2013/9/25, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	人間環境システム	専攻	申請学位 (専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(Philosophy)
学籍番号： Student ID Number			指導教員 (主)： Academic Advisor(main)	大野 隆造	
学生氏名： Student's Name	Lya Dewi Anggraini		指導教員 (副)： Academic Advisor(sub)		

要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は、「Study on Privacy Control in Shop Houses in Yogyakarta (ジョグジャカルタのショッピングハウスにおけるプライバシー・コントロールに関する研究)」と題して、以下の5章より構成されている。

第1章「Introduction」では、本研究の背景として、インドネシアのジョグジャカルタにおける店舗と住居が併設されたショッピングハウスについて、中国系およびジャワ島系住民の居住地域別に、その成立の経緯を概観するとともに、商業行為と居住行為が共存する空間におけるプライバシー保持の問題を指摘し、住民の意識および空間の設えについての実態調査を行い、日常生活における様々な行為とそれに求められるプライバシー・レベルの関係、およびそれぞれの行為を行なう空間の選択傾向から、実際にプライバシーがどのように調整されているかを明らかにする目的を明確にしている。

第2章「Survey Site and Method」では、ジョグジャカルタにおける中国系およびジャワ島系住民の居住地域において予備調査として行ったアンケート調査の結果、プライバシーに関する先行研究で一般的に用いられるプライバシー心理尺度にマークさせる調査では信頼性が低いこと、したがってプライバシー概念の定着していない住民に対する調査方法を新たに考案する必要があること、さらにショッピングハウスの店主が実際には居住していない場合もあることから、本調査においては、実際に店主が居住しており、住宅内に立ち入って観察記録する許可が得られたショッピングハウス30戸を対象に、面接による調査を行っている。プライバシーに関する質問はできるだけ具体的な状況を示して回答を求めている。すなわち、ショッピングハウスにおける様々な行為ごとに、他人、顧客、家族など住民との親密さの程度の異なる人による視覚的、聴覚的および身体的な侵入に対して受け入れられるか否かの判断を求めて、間接的に要求されるプライバシー・レベルを導く方法を明確にしている。

第3章「Relationships between Activity and Privacy」では、面接調査において自由に述べられたショッピングハウスにおける様々な行為から、共通性の高い行為16種を選定し、それぞれの行為に要求されるプライバシーのレベルを親密度の異なるカテゴリーの人の侵入に対する許容度についての回答結果から順位付けを行っている。中国系およびジャワ島系住民を別に分析した結果、聴覚的プライバシーについて前者がほとんど問題にしない傾向が見られたものの、視覚的、身体的なプライバシーの要求傾向においてはほとんど差がみられないこと、さらに身体的な侵入によるプライバシー感覚が最も敏感である傾向を明らかにしている。

第4章「Space Depth Analyses and Required Privacy」では、ショップハウスの入り口から内部の諸室までの空間的な奥行によるプライバシーの調整の働きを検証すべく、スペースシンタックス理論を援用して諸室の空間的な奥行を計測し、第3章で求めたそれらの部屋で日常的に行われる行為に要求されるプライバシー・レベルの関係を介して、空間的な奥行とプライバシー・レベルの関係を吟味しているが、高い相関は得られなかった。その理由として、西欧で開発されたスペースシンタックス理論では明確に区切られた部屋間の移動を評価して奥行を算出しているため、家具やカーテンなどの設えや段差や廊下の屈曲などによる緩やかな仕切りは評価されないためと考え、これらの影響を取り入れた新たな空間の奥行評価を行い、プライバシー・レベルとより高い相関を得ている。中国系住民は廊下や階段により、一方ジャワ島系住民は家具やカーテンなどの設えによるなど方法的な差異は見られるが、ともに、基本的に入り口からの空間の奥行によるプライバシーの調整を行っていることを明らかにしている。

第5章「Conclusions」では、各章で得られた成果を総括している。

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を2部提出してください。

Note: Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 2 copies of 800 Words (English).

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻 : Department of	人間環境システム	専攻	申請学位 (専攻分野) : Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(Philosophy)
学籍番号 : Student ID Number			指導教員 (主) : Academic Advisor(main)	大野 隆造	
学生氏名 : Student's Name	Lya Dewi Anggraini		指導教員 (副) : Academic Advisor(sub)		

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

CHAPTER 1 INTRODUCTION

Shop houses in Yogyakarta were unique, but shop houses in this study are not characterized by their architectural style as an artifact but by the mixed-use of residential & business purposes which becomes central to the issue of privacy. The conflicting space and time and residents' vulnerability to excessive interaction due to flexible opening hours are related to the notion of privacy.

CHAPTER 2 SURVEY SITE AND METHOD

The survey was conducted twice in Ketandan and Kauman. The second survey has selected 30 residents for in-depth interview and house floor plans. The residents were first asked their daily activities and responses whether they would feel annoyed when such category of people as stranger, customer, servant/worker, friend, and family interfere when doing those activities based on acoustic, visual, and physical accessibilities.

CHAPTER 3 RELATIONSHIPS BETWEEN ACTIVITY AND PRIVACY

This chapter collects 16 common activities and measures the privacy level of each activity based on the proportions of responses and examines its common tendency to each category of people in the distribution graph, and finds similarities and differences between Chinese and Javanese and that the category of friend is excluded due to very low responses.

CHAPTER 4 SPATIAL DEPTH ANALYSES AND REQUIRED PRIVACY

This chapter explains the modification of spatial depth method by Hillier & Hanson's, the impact of assigning different values to various spatial elements that separate spaces, examines the correlations between the spatial depth values and the required privacy level of each activity through the inclination and the distribution of all activities. Various physical elements were found to be used as the spatial control to meet the privacy requirement in each case and group.

CHAPTER 5 CONCLUSIONS

This chapter concludes the whole contents and states similarities and differences between Chinese and Javanese.

備考 : 論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 2 部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 2 copies of 800 Words (English).